藻類 Jpn. J. Phycol. (Sôrui) 57: 147–148, November 10, 2009

北山太樹：IPC9 鎌倉ツアー

IPC9 中日の 8 月 5 日，ミッドコングレスツアー「Kamakura」を開催した。参加者 69 名（図 1）。午前 8 時に代々木,国立オリンピック記念青少年総合センター（NYC）をバス 3 台で出発し，午前 10 時に鎌倉入りして長谷寺と高徳院を見学，正午から神奈川県立七里ガ浜高校で海藻採集と押し葉標本の作製，午後 2 時から新江ノ島水族館を見学して，午後 7 時過ぎ NYC に無事帰還した。

まずは長谷寺。ここには池を配した美しい庭園があるので，藻を採集しないよう車中でお願いしたが，これは杞憂であったようだ。

次の高徳院では，鎌倉観光の基本にしておよそ藻類とは無縁と思われる大仏（銅製）を見学（図 2）。最高齢 P. C. Silva 先生を筆頭に，大仏の内部を拝観された先生も少なくなかった。当日配布したパンフレット「A Guide to Kamakura for Algologists」（残部あり。希望者は北山へ：kitayama@kahaku.go.jp）に寺院の礼拝作法を紹介したので試みた参加者がおられたが，このとき私自身も，七里ガ浜に待機中の現地スタッフから携帯電話に「浜に海藻が一枚もあがっていません」と連絡が入ったため,賽銭箱に五円玉を投入し,「願はくば海藻を七里ガ浜に打ち上げさせ給へ」と祈念した。

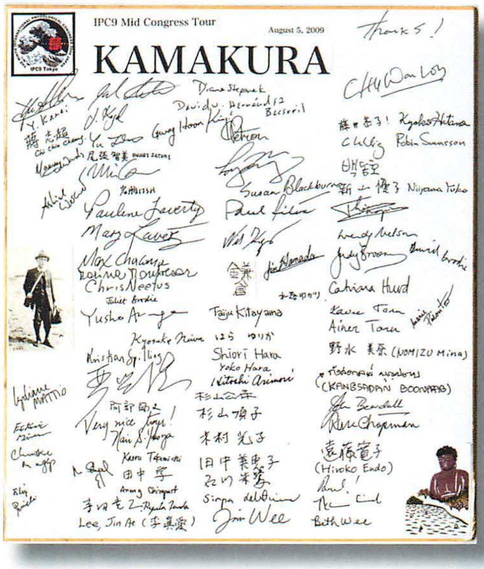

図 1　参加者・協力者による寄せ書き。

七里ガ浜では海岸で昼食を摂りながら西瓜割りを執り行った。この日本の神事もとい風物詩について濱田　仁先生にお手本を示していただく。西瓜割れず棒折れ弁当尽き始めた頃，ふと見ればいつしか浜に藻の多く打ち上がりたりける（図 3）。大仏への賽銭が効いたらしい。8 月のため種類は多くないものの，ミル，フサイワヅタ，ヘライワヅタ，ヘラヤハズ，アラメ，カジメ，マクサ，ハリガネ，ユカリなど代表的な日本産海藻種が採取された。「Ocean は生まれてはじめて」という O. N. Boldina 先生のように遊泳なさった方や貝を拾いながら稲村ガ崎手前まで散策された先生もおられたようだが，大部分の参加者は海藻を拾って七里ガ浜高校（図 4）へ持ち帰り，生物実験室で日本流の押し葉作製法を鎌倉市緑のレンジャー指導員の木村光子氏，杉山順子氏，田中美恵子氏から指導されながら押し葉をつくった（図 5–6）。作製された標本は乾燥後，同定して 8 月 20 日に各国のご本人あてに郵送した。また，実験室には彼女ら 3

図 2　大仏と参加者（高徳院）。　図 3　江ノ島を背に海藻を拾う参加者（七里ガ浜）。　図 4　参加者と現地スタッフ総勢 78 人（神奈川県立七里ガ浜高校構内）。　[図 2–3 は田中　学氏（京都大），図 4 は小林千穂氏（鎌倉朝日新聞社編集長）が撮影]

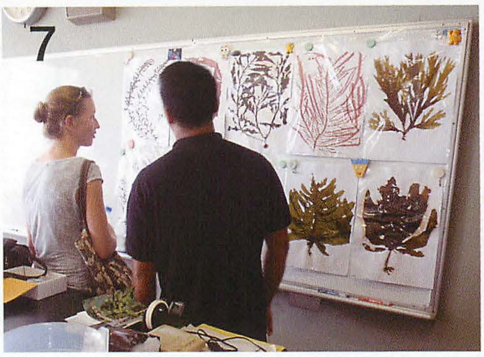

図5　ユカリの押し葉標本を作製する参加者。　図6　押し葉作製会場（七里が浜高校生物実験室）。　図7　七里が浜産海藻押し葉標本の展示。　図8　アラメ・カジメ海中林展示水槽「海中の森」（新江ノ島水族館）。[図5，8は田中　学氏，図6，7は筆者が撮影]

人や同校生徒による押し葉標本も展示された（図7）。C. A. Maggs先生からワークショップさながらに顕微鏡をリクエストされたのは想定外であったが，実習用の顕微鏡で切り抜けた。日本の高校を会場に選んだことは参加者に強い印象を与えたようで，後日Maggs先生からもメールで，"I agree, it was an excellent mid-congress tour, probably the best I've ever been on." という讃辞を頂戴した。このイベントの実現を可能にした県立七里が浜高校 有森　斉副校長先生のご英断とご尽力にお礼を申し上げるとともに，同校の高嶋紀子先生，高橋達人先生，中村　賢氏（高1），金沢総合高校の杉山公保先生，NPOひがし作業所の松本能夫氏，鎌倉市緑のレンジャーの石川トキ氏と津田宗治氏のご助力に深く感謝する。

最後のスポットとなった新江ノ島水族館では，水槽展示「海中の森」をみていただいた（図8）。これは相模湾にみられるアラメ・カジメ海中林を再現した優れた展示で，本誌56巻1号の「博物館と藻類」にも紹介されたものである（崎山 2008）。今回の水族館見学に際しては，同館学芸員の足立　文先生にいろいろと便宜を図っていただいた。感謝に堪えない。この水槽を堪能してもらった後，自由行動にしたところ，参加者の多くはやはりイルカショーへ向かったようで，芸達者なイルカが参加者を釘付けにしてくれている間，私はかき氷を食べて一息つくことができた。イルカにも深謝。思えば当日は曇天ながらも猛暑で，現地スタッフや添乗スタッフの額には汗が噴き出していた。次の機会には是非かき氷をおごりたい。

鎌倉で仏像見学と海藻採集

国際会議参加の学者ら70人

国際藻類会議が8月上旬、東京で開かれ、世界各国から訪れた学者ら約70人が8月5日、七里ガ浜海岸で海藻の採集をした＝写真。国立科学博物館研究員の北山太樹さんの案内で鎌倉の大仏や長谷寺などを観光後、バス3台で県立七里ガ浜高校に到着した一行は、波打ち際を歩いて藻を集めた。カジメ・アラメなど褐藻類、アオサ・ミルなど緑藻類、テングサ類などの紅藻類などの藻が打ち上げられており、ビニール袋に分類しながらつめた。

収集した藻は同高校の生物実験室で標本にした。白い画用紙にひろげられた藻は色彩の鮮やかさと繊細な形を際立たせていた。

鎌倉市緑のレンジャー指導員の木村光子さんら4人が標本づくりなどを手伝った。同校の有森斉副校長、高嶋紀子教諭らや1年のいきもの生態部員中村賢君の協力もあった。

図9　当日の様子を報じる，9月1日付けの鎌倉朝日新聞の記事。

本ツアーはバス3台を使用したため，2号車と3号車の指揮を寺田竜太先生と阿部剛史先生にお願いした。また，JTBの山内美加氏と柴野寛子氏は実務面でツアーを支え成功に導いていただいた。さらに，代々木から鎌倉まで休み無く英語ガイドをつとめられた水落ゆかり氏，藤井恭子氏，岩瀬はるみ氏，そして写真を撮影していただいた田中　学氏と鎌倉朝日新聞（図9）の小林千穂氏に感謝するとともに，コングレスツアー元締役の河地正伸先生をはじめとし，ツアーをご支援いただいた関係者すべての方々にお礼申し上げる。

<参加者> 阿部剛史，有賀祐勝，Dong-Ho Baek, John Beardall, Susan I. Blackburn, Olga N. Boldina, Kangsadan Boonprab, Juliet Ann Brodie, David Paul Brodie, Judy E. Broom, Max E. Chacana, Russell L. Chapman, Chi-Chiu Cheang, Anog Chirapart, Min Cho, Thierry Chopin, Wan-Loy Chu, Maeve Edwards, 遠藤寛子，濱田仁，幡野恭子，David U. Hernandez-Becer, Catriona L. Hurd, 亀井勇統，Jessica U. Kegel, Gwang-Hoon Kim, 北山太樹，Nils Kroger, Pauline Laverty, Mary M. Laverty, Hak-Jyung Lee, Jin-Ae Lee, Sirpa Lehtinen, Christine Adair Maggs, Lydiane Mattio, Frederic Mineur, Marina Montresor, Kyoung-Hyoun Moon, Chris Neefus, Wendy A. Nelson, 新山優子，二羽恭介，野水美奈，尾張里美，Dioli Ann O. Payo, Marie Pazoutova, Katherina Petrou, Agnieszka Pinowska, Filip Francizxek Pniewski, Aloisie Poulickova, Michael Schagerl, Junbo Shim, Paul C. Silva, Kristian Spilling, Joshua G. Stepanek, Diana Shipley Stepanek, Robin Svensson, 田中　学，寺田竜太，Kaire Torn, Ainer Torn, Christiane Uhlig, James L. Wee, Beth E. F. Wee, Astrid Werner, Thomas Wichard, Xing-Hong Yan, Nair S. Yokoya, Ji-Won Yu（敬称略，姓のアルファベット順）

（国立科学博物館）